

金津里山地区の取り組みを紹介



金津里山地区代表
青木 貞義さん(秋葉区金津)

青木さんは、これまで金津自治会の会長として移住・定住推進に取り組んできました。11月に金津里山地区の代表に就任し、より広域での移住・定住推進に取り組んでいきます。これまでの活動と今後の意気込みを聞きました。

人口減少に危機感

金津地区が移住・定住推進に取り組み始めたのは2年前。「少子高齢化もあり、地域の祭りを開催できなくなるなど活気がな

金津里山地区とは

秋葉区の里山周辺(朝日・金津・塩谷・割町地区)で移住・定住に向けて一体となって取り組む地区の名称。朝日地区と金津地区のこれまでの取り組み実績などを受け、11月にHAPPYターンモデルに指定されました。



HAPPYターンモデル指定式の様子

移住者の声

『金津地区への移住』を決めました!

自然が豊かな場所で子育てをしたいと思い、移住先を探していました。そんな時、新潟市の移住・定住情報サイト「HAPPYターン」で秋葉区の移住体験ツアーの参加者募集を見かけ、「これだ!」と思い家族みんなで参加しました。

ツアーに参加して感じたことは、地域の人々が文化や土地、歴史などをすごく大切にしているということです。子どもを地域全体で見守り育てていく意識が高く、移住者を迎え入れてくれる気持ち強いことも知ることができ、「ここに住みたい」と思うようになりました。車で少し走れば市街地へ行くこともでき、自然と都市機能のバランスが良いことも移住の決め手の一つです。

これからは近くの山や川でハイキングやスノーボード、カヌーや釣りなど、季節に合わせた自然の遊びができることを家族みんなで楽しみにしています。



酒井さん家族
(隆光さん、瑞穂さん、雄宇くん)
神奈川県川崎市在住。12月下旬に金津地区へ移住予定

※関連記事を別冊情報ひろば3面に掲載

「移住者は希望がある反面、不安も持っている。安心して暮らしてもらうためには、地域の理解と協力が不可欠だと思っただ」。青木さんは地域の人が集まる行事があるたびに、取り組みの説明などを繰り返し行ってきたと言います。

「一度金津に来て魅力を体験してもらおうとともに、生活のイメージを持ってもらうことで移住につながりたいと思った」。昨年・一昨年には、金津・朝

空き家を活用

最初に取り組んだのは空き家調査でした。金津地区内の空き家の軒数や状況を把握し、移住

「地域の魅力を一番知っているのはそこに住む人たち。自分たちの地域の資源をいま一度見つめ直し、情報発信していくことが大切」。金津地区の魅力は自然が豊かで文化施設が充実していることや地域の人の士気のつながりが強いことだと青木さんは言います。

移住体験ツアーを開催

希望者へ紹介することで移住推進につながることを目的です。空き家の持ち主には青木さんが直接話をして、移住希望者へ売却することの了解を得ました。



代表 原 淳一さん(秋葉区朝日)

里山の自然を生かした子育て環境を

「自分で考え行動できる子を育てたい」。原さんは昨年、小学生が放課後に通う「Akikha放課後里山学校」を朝日地区に開設しました。同施設では小学1〜3年生の児童15人ほどが放課後に集まり、里山の森や田畑でそれぞれが好きな遊びをしたり、調理、畑仕事などの生活体験をしたりして過ごします。「子どもたちにあれこれ指示はしません。自然にあるものを使って自ら遊びや仕事を考えることを大切にしています。子どもを自然の中で伸び伸び



活動の様子

「移住・定住は長い目で見て取り組まなければいけない。人口減少や空き家の増加はこれか

人口増加で地域の人も前向きに

日・小須戸地区の自然を巡り地域の人と交流する「移住体験ツアー」を区役所と一緒に開催。ツアーへの参加をきっかけに県外からの移住を決めた人もいました。

近隣地域と協力

「取り組みをする中で、里山に魅力を感じて移住を考えている人がたくさんいることが分かった」。同じく移住推進の取り組みを進めていた朝日地区のほか、近隣の塩谷、割町地区と一緒に「金津里山地区」として取り組みを進めていくことを決めました。「4地区には少子化という共通の課題がある。金津と朝日がこれまで取り組んできたノウハウを生かし移住・定住を推進していくことで、これらの課題にも取り組み、地域の活性化につなげていきたい」と意気込みを語ってくれました。